

Zahlbr. with the largeness and colour of thallus and spore, type of apothecia, etc.

終に貴重な標本を貸して下さった上に色々と御指導を賜った朝比奈先生に深く感謝の意を表すると共に、この論文を書く動機を作った Llano 氏にも謝意を表する。

### 引用文献

- 1) 佐藤正巳: いはだけ科地衣ノ分類體系 (植研 13: 59-66 (1937))
- 2) Frey, E.: Beiträge zur Biologie, Morphologie und Systematik der Umbilicariaceae (Hedwigia 69: 219-252 (1929)).
- 3) Frey, E.: Weitere Beiträge zur Kenntnis der Umbilicariaceen (Hedwigia 71: 94-119 (1931)).
- 4) Scholander, P. F.: On the Apothecia in the Lichen family Umbilicariaceae (Nyt Mag. f. Naturv. 75: 1-32, pl. 1-5 (1936)).
- 5) Zahlbruckner, A.: Lichenes in Engler-Prantl, Natur. Pflanz.-Fam., ed. 2, 8 (Leipzig, 1926).
- 6) Räsänen, V.: Das System der Flechten (Acta Bot. Fenn. 33, 1943).
- 7) 朝比奈泰彦: 地衣成分を種名學的要素として利用することは合理的なるか (植物學選集: 23-25 (1950)).
- 8) 朝比奈泰彦: 藓汗湯語 (35) ニニソ邦産地衣ニツキテ (植研 7: 102-106 (1931))

### ○マデイラヒルガオの花 (久内清孝)

K. HISAUCHI: On the flowers of

*Convolvulus farinosa*.

筆者は本誌の本巻5號でヒルガオ科の一外來種にマデイラヒルガオの新稱を興えておいた。其とき Jacquin の Hortus Botanicus Vindobonensis と Botanical Register 16 とを文献としてあげておいたが、前書には5裂した花冠が圖説してあり、後書には5稜性の漏斗狀花が書いてある事に気付いたが、この點については前者が 1770 年に出た古い本なので、古書にありがちな非寫實と見て別に氣にとめなかつた。ところが本年私の栽培しているものをながめていると、ある枝には5裂した花もさくことがあるのに気付いた。それ故兩書の圖は共に正しいのだと知つたので、ここにこの事實を記しておくことにした。なお5裂といつても、完全に5裂するとは限らず、部分的に不規則な2-3裂のこともあることは勿論である。いまここで記すものは前記のものの實生として、本年發苗した一個體である。また花色に個體的の濃淡がある。

Corolla of *Convolvulus farinosa* is usually 5 lobed, but it sometimes clefted as illustrated in Jacquin's Hort. Bot. Vindobon.

### ○ヒメノヤガラの新産地 (建部恵潤)

Yejun TATEBE: New locality of

*Hetaeria sikokiana* (Makino et F. Maekawa) Tuyama.

播磨宍粟郡三河村船越山は植物の豊産地であつて、分布上興味あるものにイハヤシダ、オホヒメワラビモドキ、タニヘゴ、オホバノハチデヨウシダ、チトセカヅラ、ナツアサドリ、クロタキカヅラ、ヨコグラノキ、ミヤマトベラ、キバナサバノヲ、キクガラグサ、ツチアケビ等が自生し、又ルリデラスズダケの原産地であるが、昭和24年8月3日ラン科の稀品ヒメノヤガラを採集した。前川博士の御同定により判明し、その標本は東大脂葉軍におさめられ筆者の手元には無い。本種の採集によつて船越山が益々暖地性の稀産品に富むことが立證されたのである。